

令和4年12月27日

於

府中市役所

令和4年度第2回

府中市総合教育会議 会議録

府中市政策経営部政策課

令和4年度第2回府中市総合教育会議 会議録

1 開 会 令和4年12月27日(火)

午後3時00分

閉 会 午後3時57分

2 出席者

市 長 高 野 律 雄 (議長)

教育長 酒 井 泰

委 員 日 野 佳 昭

委 員 平 原 保

委 員 新 島 香

委 員 増 淵 達 夫

3 欠席委員

なし

4 教育委員会事務局出席者

文化スポーツ部長

佐 藤 直 人

文化生涯学習課長

鈴 木 正 憲

教育部長

赤 岩 直

教育部次長

矢ヶ崎 幸 夫

教育部副参事

隅 田 登志意

教育総務課長補佐

若 山 貴

指導室主幹

目 黒 昌 大

指導室統括指導主事

菅 原 尚 志

指導室統括指導主事

濱 田 昌 也

5 市長部局出席者

政策経営部長

石 橋 純 一

政策課長

大 井 孝 夫

政策課主査

斎 藤 麻 美

政策課事務職員

兵 動 早 菜

6 議事内容

(1) 協議題1 府中市教育委員会における令和5年度施策展開の方向性について

(2) 協議題2 SDGsに関する取組の情報共有

## 7 傍聴者の数

4名

## 8 発言内容

○市長 それでは、只今より、令和4年度第2回府中市総合教育会議を開催させていただきます。教育長並びに教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席いただき、心より感謝を申し上げます。また、日頃より、府中市の教育にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本日は、協議題1「府中市教育委員会における令和5年度施策展開の方向性について」、協議題2「SDGsに関する取組の情報共有」の2件について、ご協議をお願いいたします。皆様に活発なご意見をいただき、教育に関して市長部局と教育委員会の連携を更に深め、本市の教育行政を一層推進していきたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

---

### ◎傍聴許可

○市長 協議題に入ります前に、この会議は法律及び当会議の運営規程により公開が原則とされており、本日傍聴希望の方がお見えですので、傍聴を認めることとしてよろしいでしょうか。

○教育長、教育委員 異議なし

○市長 それでは、傍聴を認めます。

---

### ◎協議題1 府中市教育委員会における令和5年度施策展開の方向性について

○市長 それでは会議次第に沿って議事を進めてまいります。はじめに、協議第1「府中市教育委員会における令和5年度施策展開の方向性について」です。

9月13日に開催いたしました第1回総合教育会議において、「令和5年度の政策立案に関する基本方針」をお示しいたしましたが、令和5年度は新たな組織体制のもと始まった第7次府中市総合計画前期基本計画の2年目を迎え、いよいよ新庁舎おもやへの移転も予定されています。これを絶好の機会と捉え、市民サービスの向上や行政サービスのデジタル化及び効率化を加速させ、各施策に全庁一丸となって取り組んでいく必要があります。また、多様化する市民ニーズに的確に対応し、新たな府中の未来を切り拓くため、市民との協働共創のもと、市政運営に取り組むこととしております。

この方針を基に、教育部、文化スポーツ部の両部におきましても、来年度の部の運営方針を策定いただき、新規事業及びレベルアップ事業等の提案もいただきました。本日は教育委員会における来年度の施策展開の方向性を、改めてご説明いただきたいと思います。

教育長それではご説明をお願いいたします。

○教育長 それでは私からご説明申し上げます。

前回9月13日火曜日の総合教育会議において、高野市長から、令和5年度の政策立案に関する基本方針についてお示しをいただいたところです。これを受けまして、本市教育委員会の令和5年度における施策展開の方向性を協議いたしましたので、本日はその内容について、教育委員会を代表して私より市長にご報告申し上げたいと思います。

令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行いつつ、教育活動を確実に実施するとともに、社会の動向や要請に的確に応えられるよう、次のとおり施策を展開してまいります。

はじめに学校教育関係でございますが、学校では学習指導要領に基づき、全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、主体的に学習に取り組む態度等を育成します。児童・生徒の健全育成に向けては、喫緊の教育課題である不登校やいじめの未然防止・早期対応の充実を図り、児童・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、各学校を支援してまいります。特に不登校対応については、全ての学校でサポートルームを整備し、不登校となっている児童・生徒のみならず、登校しぶりが見られる児童・生徒に対しても、個々の状況に応じた適切な支援を行うとともに学習機会の確保を図ります。また、いじめへの対応については、いじめの未然防止の徹底を最優先にするとともに、把握した全てのいじめに対して確実にかつ適切に対応できるように支援してまいります。

I C Tを活用した教育の推進については、引き続き教職員研修の充実やI C T支援員の配置を行い、児童・生徒の一人1台端末のさらなる活用により、学習指導の充実を図ります。また、最適なI C T環境の構築を目指し、I C T機器の効率化・集約化等を進めてまいります。

特別支援教育については、第4次特別支援教育推進計画に基づき、障害等の有無にかかわらず、児童・生徒が持つ能力を最大限に伸長することができる指導方法の工夫改善に取り組むとともに、ユニバーサルデザインや合理的配慮の視点に立った教育環境の改善・整備に努めます。

また、多様性を尊重して異なる言語や文化を理解し適切な関係を築いていく力の育成に向け、英語でコミュニケーションを図る体験活動を充実し、児童・生徒の英語力の伸長を目指します。

現在、改築事業を進めている、府中第八小学校及び府中第一中学校では、令和5年度中の改築事業の完了を目指すとともに、第二期実施校の府中第三小学校および府中第六小学校では改築事業に着手します。

また、学校施設の老朽化対策が順調に実施できるよう、学校施設改築・長寿命化改修計画の令和6年度の改定を目指し、見直し作業に着手します。これと並行して、学校施設の適正規模・適正配置の考え方に基づき、大規模化や小規模化が見られる学校の具体的な対応を検討してまいります。

学校給食センターについては、引き続き、安全、安心でおいしい学校給食の提供を進めるとともに、府中産農産物の活用、栄養教諭を中心とした食育活動の推進、食物アレルギー対

応方針に基づくアレルギー除去食の適切な提供、安定的な給食提供のための適切な給食設備の保守に努めてまいります。

宿泊体験学習については、令和4年度に整理した義務教育9年間を見通した宿泊体験学習の在り方に基づき、中学校第1学年において、より良い人間関係作りを目的とした宿泊体験学習を、新たに中学校全校で実施いたします。また、セカンドスクールは民間施設を活用した新たな形態で、小学校全校で実施いたします。

このほか、就学援助費等の教育関連資金の支援など、子供たちの教育環境の充実に努めてまいりたいと思います。

次に、社会教育関係でございますが、生涯学習の推進については、3期目の指定管理期間に入る生涯学習センターでは引き続き安定的な管理及び事業の運営を行うとともに、将来的な施設の在り方について検討を行い、老朽化対策を進めてまいります。

スポーツタウン府中の発展に向けて、第2次府中市スポーツ推進計画に基づき、市内を拠点に活動するトップチーム等と連携した取組を進めるとともに、障害者スポーツを含めたスポーツ活動の普及と促進に向けて各種取組を進めてまいります。また、スポーツ施設については、市民球場を始めとする各施設の維持管理を適切に行うほか、熱中症対策として地域体育館に空調設備の整備等を進め、市民が安全で快適にスポーツが行える環境整備を図ってまいります。

文化財及び文化施設については、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）第2期整備に向けた取組や、内藤家住宅の保存活用事業、ふるさと府中歴史館の機能移転に向けた方針の検討を進めるとともに、郷土の森博物館の本館改修工事を行います。

府中市史については、各時代の通史編の編集と発行に取り組んでまいります。

図書館については、電子図書館や地域資料のデジタル化等、様々な事業を展開し、利用者数や貸出冊数の増加を図ります。また、令和6年度を計画初年度とする第5次府中市子ども読書活動推進計画を策定してまいります。

美術館については、年間5本の企画展・所蔵品展を中心とする展示活動、教育普及活動、作品収集活動の実施や、所蔵品データベースの一般公開による作品管理の効率化と作品情報の提供を図ります。

以上、本市教育委員会における次年度施策展開の方向性についてお伝えさせていただきましたが、各施策の実現や円滑な進行のためには市長部局のご協力及び双方の緊密な連携が不可欠であると考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

**○市長** ありがとうございます。

ただいま教育長からご説明をいただきまして、学校教育関係においては、まず何より児童・生徒が安心して学校生活を送れるために、不登校やいじめについて未然防止・早期対応の充実に図っていくという話がありました。これまで、この総合教育会議の場においても、不登校やいじめについて議論を重ねてきたところですが、引き続き我々市長部局としても

この課題の解決が大変重要であると認識をしておりますので、ぜひ今後も連携した対応をお願いいたします。

また、特別支援教育についてご説明をいただきました。第4次特別支援教育推進計画に基づき障害等の有無に関わらず、子供たちが持つ能力を最大限に伸ばすことができるように指導方法の工夫や改善、そしてユニバーサルデザイン等の視点に立った教育環境の充実に努めていただけること、承りました。現在整備を進めております、児童発達支援センターの供用開始に向け、来年度はその開設準備の大詰めを迎えます。学校も含めた関係機関との連携等による支援体制を実現してまいりたいと考えておりますので、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

さらに、学校施設については、学校施設改築・長寿命化改修計画に基づき進んでおりましたが、建築資材の高騰などが改築費用に大きな影響を及ぼしておりまして、ここで一度立ち止まり、適正規模・適正配置の考え方も含め、見直しを行うものと捉えております。コロナ禍や物価の高騰など、社会情勢がこれまでに大きく変化をしておりまして、計画通りに進めない状況に直面しておりますが、改めて児童・生徒にとって最適な教育環境を実現できるよう検討をお願いいたします。

また、社会教育関係においても、各施設の維持管理、そして老朽化対策を含めた施設整備が課題となっているということで、改めて、機能についての検討や施設の配置など、在り方そのものを考える時期にきていると思います。生涯学習活動の推進や、文化芸術に親しむ機会の充実、そしてスポーツ活動の普及促進のために、引き続き、各取組の充実を図っていただくとともに、施設の在り方についても様々な角度からご検討をお願いできればと思います。

来年度予算につきましては、年明けの政策経営会議を経て予算案を確定してまいります。総合教育会議では、予算額が確定した次の開催の際にご報告をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

このことについては以上とさせていただきます。

---

## ◎協議題2 SDGsに関する取組の情報共有

**○市長** 続きまして、協議題2「SDGsに関する取組の情報共有」であります。SDGsは、全ての人が安心して地球で暮らし続けていくための目標であり、2030年までに目指すべき、貧困や教育、環境等の17の目標から構成されております。

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指すため、市長部局及び教育委員会それぞれからSDGsに関する取組についてご報告し、委員の皆様それぞれの視点で幅広くご意見をお願いできればと思っております。

それでははじめに、市長部局の取組につきまして、事務局から説明をさせていただきます。お願いします。

○政策経営部長 それでは、市長部局が行うSDGsに関する取組につきまして、資料1に基づき、ご説明させていただきます。内容につきましては、今年度から実施しております、明星高等学校との連携事業を中心にご報告させていただきます。

はじめに、1の「連携事業実施の背景」をご覧ください。

市では、令和4年度から令和11年度までを計画期間とする第7次府中市総合計画を策定し、同計画の中で、まちづくりの各施策と持続可能で多様性と包摂性のある社会をめざすSDGsの17のゴールとの関係性を明らかにいたしました。これにより、市職員も今一度、SDGsに対する理解を深める必要があることから、SDGs推進校を宣言する明星高等学校との協働による、SDGsをテーマとする連携事業を開始いたしました。

なお、本連携事業につきましては、令和4年3月に同学校と「地域活性化に関する協働協定」を締結したことに基づき実施するものでございます。

続きまして、2の「実施内容」でございますが、(1)の第1回目は6月29日に実施いたしました。市職員がSDGsについての理解を深めることを目的に、同学校の高校3年生がこれまで総合の授業の一環で行ってきた、SDGsをテーマとする取組について、各グループから発表いただきました。発表の内容につきましては、ジェンダー平等をテーマとした制服改定への関わりや、ペットボトル削減に向けたマイボトルの作製、また、落ち葉の堆肥化への取組など、多岐にわたる内容となっております。写真は当日の発表の様子で、明星中学校・高等学校内の視聴覚ホールで実施いたしました。

次に、裏面の2ページをお願いいたします。(2)の第2回目は7月20日に実施いたしました。第1回の内容をもとに生徒と市職員とがSDGsについてさらに理解を深めるため、ワークショップを実施しました。テーマごとにグループをつくり、SDGsを自分事として捉えられるようなワークや、SDGsの達成に寄与する取組のアイデア出しなど、生徒と市職員とが意見交換を行いました。

第1回では、高校3年生のみの参加でしたが、第2回では事業の連続性を視野に、高校1年生及び2年生の生徒にも参加いただきました。

続きまして、(3)ですが、第3回は11月16日に実施いたしました。第1回及び第2回の取組を通して、協働により得られたことを踏まえ、その後、市役所で実現可能な取組について、職員のみグループで各テーマに基づき検討を進めました。そして、第3回では、その検討結果を生徒に報告いたしました。

報告した内容は、資料に記載の6テーマとなりますが、テーマにつきましては、第1回に実施した生徒さんからの発表の内容をもとに決めて行いました。

続きまして、3ページをお願いいたします。

3の今後についてでございますが、総合計画に基づく各施策を着実に推進するとともに、SDGsの達成のためには一人ひとりの行動、様々な主体との連携による取組が不可欠となります。第3回で行った報告では、次年度以降も同学校と協働で取り組んでいきたい内容の提案も含まれており、よりよい府中市への実現に向け、引き続き連携事業を通してSDGsの達成に寄与してまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○市長 それでは、市長部局からの説明が終わりましたので、教育委員会の取組について教育長からご説明をお願いいたします。

○教育長 お手元でございます、資料2に基づきましてご説明を申しあげます。

本市では持続可能な社会の作り手に必要な資質能力を育成するために、未来へつなぐ府中2020レガシーと称しまして、持続可能な開発のための教育として、各教科等におけるSDGsを踏まえた総合的な取組を全ての小・中学校で実施しているところでございます。

市立小・中学校では、これまで地域の歴史や自然などを学ぶ、ふるさと学習及びオリンピック・パラリンピック教育にも取り組んできましたが、今年度からオリンピック・パラリンピック教育とふるさと学習を融合させ、未来へつなぐ府中2020レガシーとして、自然や文化、地域の社会資源等を活用し、共生社会の実現に向けた教育活動を推進しているところです。

この未来へつなぐ府中2020レガシーでは、資料右下にございますが、ボランティアマインド、障害者理解、豊かな国際感覚、まちづくり、歴史・文化、自然・環境の6つのテーマを設定しており、これらのテーマは持続可能な開発目標、いわゆるSDGsの17のゴールに関連するものとなっています。こうした方針に基づき、現在各学校においては地域や様々な社会資源を生かした独自性の高い特色ある教育活動に取り組んでおります。

ここでいくつか市立小・中学校の取組をご紹介させていただきたいと思えます。資料に記載はなく、口頭でのご説明になります。

矢崎小学校や南町小学校、四谷小学校では、河川管理者や多摩川漁業協同組合等の地域と連携させていただきまして、多摩川の豊かな自然を活用し、川遊びや生き物観察などから自然の大切さなどを学ぶ活動を実施しています。また、市内の多くの小学校では、地域の田んぼで地域の方から農業指導を受けながら田植えの体験を通して、米作りの方法だけでなく、田んぼが育む生態系も学ぶ田植え体験に取り組んでいます。中学校では、小学校での学びを生かし、エネルギーの利用や気象のメカニズム、世界各地で起きている自然破壊や地球温暖化などについて学ぶほか、今年度、府中第五中学校では、府中第六小学校、新町小学校、私立明星中学校と連携して、ふるさと府中の将来をテーマに、五地区サミットを開催し、住み続けられるまちづくりについて協議する機会を設けました。

また、これに関連しまして、市立中学校11校の生徒会本部の生徒たちが年2回集まり、話し合いを行う生徒会リーダー研修会があり、先月11月26日に開催された会合では、各学校の生徒会が中心となって取り組んだ特色のある取組として、府中第四中学校、府中第五中学校、府中第八中学校、府中第九中学校、浅間中学校から発表がありました。内容は、府中市の将来についての意見や、各学校の生徒会活動を活性化するための工夫などについての発表がありました。特に、府中第八中学校の発表は、修学旅行で学んだ京都・奈良のまちづくりを府中のまちの発展に生かすための工夫について、防災機能の充実という視点からの発表が行われました。浅間中学校では、まちの活性化のために、生徒たちが市内のお店などのPR大使になる企画について発表を行ってまいりました。



当日参加した生徒たちは熱心にメモを取り、自分の学校でも取り入れることができないかという視点で熱い議論が展開されました。自分の学校を良くしたい、自分の住むまちをより良くしたいという気持ちを持って建設的な意見交換を行うことができおり、将来の府中を背負う未来にふさわしい人材が育っていると真に心強く感じた次第です。

なお、今回実施を見送ったのですが、次回からはこうした中学生の真剣な議論を市の担当者にも見てもらい、場合によっては一緒に議論に参加してもらうことも計画しているところであります。

さらに、府中市のシンボルであるケヤキ並木を将来にわたり守り続けていくため、府中第一小学校、府中第一中学校、都立農業高等学校が連携して取り組んでいる、国天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護更新プロジェクトもごさいます。現在、世界には木工芸分野や生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大など、これまでの人類の開発活動に起因する様々な問題があります。持続可能な開発のための教育は、これらの現代社会の問題を自分たちの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり、豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで持続可能な社会を実現していくことを目指して行う各種教育活動と言われております。

今年度策定しました、第3次学校教育プランでは、社会を主体的に創造的によりよく生きる力の育成において、子供たちの課題の解決に向けた実践力を育成するために、こうした取組の中で行っていくことを掲げております。引き続き、全ての市立小・中学校において、子供たちにとって身近な府中の自然や文化財などの豊かな教育資源等を活用した教育を推進してまいりたいと思います。

なお、最後に付け加えですけれども、実は来年4月から学校給食で提供している牛乳をストローレス容器に変更することを予定しております。これも環境に配慮した取組の一つであり、実施に当たっては、児童・生徒にプラスチックが環境に与える影響や、削減する意義を十分に理解させる学習を行うとともに、保護者の皆様にも積極的に周知してまいりたいと思っております。長くなりましたが、以上、教育委員会からのご報告です。

○市長 はい、ありがとうございます。市長部局とそれから教育委員会の説明をいただきましたが、教育委員の皆様からご意見などありましたらお願いいたします。

○日野委員 私の考えを述べさせていただきます。

SDGsの目標は実現がとても難しいテーマが多く、世界、日本の社会全体で協力し、取り組む必要があるものです。世界に目を向ければ、CO2削減によるクリーンエネルギーの問題は解決の目処も立たず、また経済成長とは相反するとも言われております。ウクライナの問題など、世界の紛争に終わりは見えません。貧困は人口増加に伴いさらに深刻となっております。そして、我が国を見れば、少子高齢化、災害への対応、借金財政等、SDGsとは程遠い状態です。

私たち国民としては、身近な今自分にできることから始めることが大切だと思います。しかし、そもそもSDGsについての認識が薄いこと、正しく理解できてないように感じます。

行政、教育委員会としては、広報活動から始めなければならないと考えます。学校での具体的な取組が、家庭、さらにはその先へとつながることを期待しております。

私個人としては、目標の3「全ての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」につき、少し考えていることを述べます。

目標3の医療の問題です。今回、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、医療体制の問題点が露呈しました。2030年までのSDGsの達成はさらに遠くなっています。今度も予想される、新興感染、パンデミック、また世界における医療格差についても対処していかなければなりません。日本の根本的な医療構想に基づき、医療の質はもちろんですが、医療制度の改革などに取り組まなければならないと考えております。

目標4の教育についてです。私も教育委員の仕事の中で、多少関わってまいりました。障害者総合支援法、さらに医療的ケア児支援法が制定され、医療的ケア児への支援が「努力義務」から「責務」へと変わりました。インクルーシブ教育から共生社会といった言葉も使われるようになり、府中市でも特別支援教育推進計画、学校教育プランなどに取り入れられております。今後も微力ながらさらに努力していきたいと考えております。以上です。

**○市長** ありがとうございます。貴重なご意見でございまして、世界の現状を考えたときに、果たして2030年までにこのターゲットについての目標を達成することができるのかについては、非常に不安なところであります。しかしながら、目標を掲げてそこに向かっていく、そのことを個人がしっかりと意識して取り組んでいくことが大切というご意見でございまして、まさにその通りだと思います。私といたしましても、今度の元旦号の広報のトップページにSDGsをテーマとした記事を書ける予定でして、東京外国語大学の学生と対談をいたしました。この記事を約4ページにわたって見開きで掲載をいたします。このようなことを通して、市民の皆さんにSDGsとは何か、また、どのように取り組んでいくのか、その大切さについて認識を深めていただきたいと思いますと考えております。

他にはいかがでしょうか。はい、平原委員。

**○平原委員** はい。SDGsのスローガン、誰一人取り残さない社会の実現を目指すことについて、学校教育においては、質の高い教育をみんなが受けられる環境を整えることが中核の課題となります。その実現のためには、私は子供が安全に安心して主体的に学び合う、温かい学校作りを目指すことが重要だと考えます。また、教職員にとっては、こうした学校作りのためにやりがいと誇りを持って取り組み、互いの努力を尊重し合える学校をつくることが重要となります。

そのために、本日の資料の未来へつなぐ府中2020レガシーの取組例にあるように、府中市の特性や恵まれた教育環境をいかした、府中ふるさと学習とオリパラ教育の6テーマに焦点を当てて教育を推進することが重要だと考えます。先ほど教育長からも報告がありましたが、これまでも、各学校においてはいろいろな取組が行われています。稲作、野菜作り、多摩川や浅間山など豊かな自然に関わり、気づき、そこから問題意識を持って主体的に学ぶ学習が推進されています。また、防災・減災に対しての当事者意識も育まれつつあると感じています。さらに、武蔵府中郷土かるたを活用した学習など、子供たちが楽しみながら府中

の歴史、文化、伝統を学び、継承していこうとする態度が育まれています。特に、郷土から50年間にわたり、小学校3年生の全員に配布され、親しまれてきました。大人になった同窓生や親子でも話題になり、それが文化になっていると感じています。他にも、学校の教育課程には、まちづくり、人権、国際交流など、多岐にわたる取組が計画実施されていることが明示されています。こうして、学校や地域の実情に応じたSDGsの実現を目指した取組が行われています。今後もSDGsに関する取組について、市長部局並びに教育委員会が連携・協働して、市民の理解や協力が得られるように工夫して取り組んでいくことが不可欠だと考えています。

広報については、先ほど市長さんから今回の広報誌において掲載されるということで、今後も継続的に学校及び市長部局が広報を続けていくことが大事であると感じております。以上です。

**○市長** はい、ありがとうございます。子供たちが育つ上で、やはり自然や文化など、本物に触れるということはすごくいいことだと思っております。多摩川などで生物に直接触れることで、多様性、そして生きる者たちの命の大切さを学んでいく、そのようなことがかけがえのない経験になるのだと思っております。

来年度の方針において、市政のテーマの三つの柱のうちの一つに、「未来を担う人の育み」をテーマに掲げました。これは、第7次府中市総合計画の重点プロジェクトの一つでありまして、この8年間に未来を担う人をしっかり育む、その土台作りをさらに充実していきたいと考えておりますので、教育委員会の皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思っております。

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

**○新島委員** SDGsということで、私は保護者の立場で考えまして、日々一緒に過ごしているお母さん方、ご家族の方からは、このSDGsという言葉が出始めたときに、「それって何」という本当に素朴な疑問が多く聞かれました。私自身も「それって何だろう」と思い、調べたりしましたけれども、現在は、保護者の方々もずいぶんその言葉に慣れて、生活の中でも、「これがSDGsだよ」という言葉が出てきていることを感じております。それも、子供たちが学校で学んできて、学校から配られてくる配布物などで目にする機会が増え、大分理解が深まってきているのかなと感じています。SDGsは、世界規模・地球規模で考えていくものなのだと思いますけれども、日々生活していると、なかなかそういう大きなところまで目が行き届かないことも多く、結局は、各自ができることをやっていくことが大切であると感じています。PTA活動でいいますと、制服をリサイクルしたりですとか、学用品をリユースしたりですとか、そういった活動をしてきています。子供たちにはお兄ちゃんお姉ちゃんのお下りの服を着せたりとかそういった地道なことが結果こういうところにつながっていくのかなと感じているところです。

子供たちと一緒に生活する中で、資源を守るということでは、地域や用水路の清掃活動に参加してきたことなどがゴールにつながっていくのかなというふうに感じています。うちの子たちは矢崎小学校卒業ですので、本当に多摩川ではたくさんの経験をさせてもらいま

した。河川敷での芋堀など、自然環境にありがたみを感じながら育ってきたかなと感じています。大人になった今も、遊びに行くことも多く、自然を守る、地域を大切にしていこうと大事に思っている子に育ってくれたのも、やっぱり学校教育の良さかなと感じています。

これから、世界規模で物事を考えていける子が育つように、まず大人が理解して、関わっていかねばならないと思いますので、親の仲間としてもそういった話題を出していきよう生活していくことも大事であると思っていますので、そのような役割ができればいいなと感じています。以上です。

**○市長** ありがとうございます。2週間ほど前ですが、市長部局の環境政策課が担当している、児童・生徒の皆さんに参加いただく「環境啓発ポスターコンクール」という取組がありました。そこで、子供たちの見事な作品に触れ、子供たちの環境に対する知識の多さや、課題に対して非常に真剣に取り組んでいることが伝わり、逆に子供たちから教わるのが多く、今年は極めてレベルが上がったなと感じました。

そこでは気候変動もそうですし、それから私たちが生活の中で出しているプラスチックゴミに焦点を当てた作品があり、ごみが海へ流出して、それを魚が見上げて「これいつまで降ってくるんだろう」と思っていることを表現したのがあり、本当に心打たれる、考えさせられるものが多く、子供たちが夢と希望をいつまでも持てる社会を作らなければならぬなということを感じました。ありがとうございました。

**○増淵委員** このSDGsについては、17のゴールを反対する人は多分誰もいないだろうと思っておりますが、具体的にどう行動していくのか、どう解決していくのかについては様々な議論があると認識しています。そのため、このSDGsについては、子供も含めて何が課題であるのか、その課題解決のためにどのように取り組むべきなのかについて自らの考えを明らかにし、様々な人々と議論することを通して解決策を模索することが大切であると思っています。また、議論を通して到達した解決策を、発達段階等に応じて具体的な行動に移していくことがとても大事だと思いますし、それは学校教育にとどまらず、全ての市民が取り組まなければならないことだろうと思っております。そのような視点から見たときに、資料1の明星高等学校との取組に私は非常に驚きました。何に驚いたかという、第1回で市の職員が、明星高等学校の生徒たちからSDGsについて教えてもらったということですが、このような取組を私は初めて見ましたので大変驚きました。私の他の仕事で、都立高校のカリキュラムの開発の仕事に関わっていた際、子供たちが考えたことを役所の職員の方に提案をし、そして職員から意見をいただくという取組があったのですが、この明星高等学校と府中市の取組は、その逆転で、市の職員が、生徒が総合的な探究の時間等で取り組んできたことまず聞き、そして生徒たちと一緒に2回目で議論をし、そして3回目は、これもさらに驚いたのですが、市の職員の方々が、検討結果を生徒に報告したということで、職員の方々が本当にいろんなところから学んでいくという姿勢の表れだなと感じ、その点に敬意を持ちたいと思います。どういう経緯でこのような取組が始まったのか、大変興味を持ったところですので、さらに詳しく聞いてみたいと思っております。

また、市立小・中学校ですけれども、府中2020レガシーなど、様々な取組をしていることが教育長の説明からも改めて確認をした次第です。これまでの学びは、まず国語や数学、英語などの科目を学んで、それを課題解決において使っていくという発想であったと思いますが、総合的な学習の時間、もしくはSDGsをテーマとしたものは、逆に、地域を見ながらそこから課題を見つけて、その解決するためにはどういう知識や技能が必要なのかを考え、そこで数学や理科の知識が必要だったということに気づきながら学ぶサイクルであり、地域の方々の理解と協力、社会が一体となって学びを育んでいくことが必要であると思います。そういった意味で、様々な形で学校と行政が一丸となって取り組んでいくことがさらに必要だと感じていますし、それを充実させていくために、学校の教育活動をどう支援していくのかということは、教育委員会として課せられた大きな課題であると受け止めながら考えました。ありがとうございました。

**○市長** ありがとうございます。今、増渕委員からお話のあった後半の部分で、先に教科を学び、それを活かしていくこととは逆で、社会を知り、世界を見て、課題を知り、自分たちが生きていくためにその問題の課題を解決するためには何が必要なのかということを読み進めていくことは逆転の発想ですが、やはり子供たちにとっては一番身近な道筋がそこに見えてくるのではないかと改めて今認識をいたしました。

それから、明星高等学校とのSDGsの取組についてですけれども、まず一つは、府中市にとってかけがえのない私学でございまして、来年、創立100周年を迎える学校であり、これまでも様々な連携をしてきたことはもちろんですが、昨年度、この高校の生徒たちと、市長と語る会を行いまして、非常に強いインパクトを受けました。その取組は一旦終わったのですが、生徒さんが活動されている様々な事柄については、学校自身が非常に強く地域に発信をし続けているということから、地域活性化に関する協働協定を締結するに至りました。そしてこのSDGsの取組については、これから事務局から説明をさせますけれども、何かの情報で、東京都内の2校がSDGsを学んでいる代表的な学校として紹介されており、そのうちの1校が明星高等学校でありました。メディアからも、非常に積極的にこのSDGsについて学び、そして自ら様々な展開をしている学校であると評価されておりました。

それでは詳細を事務局から説明をお願いします。

**○政策課長** 明星高等学校とこの取組を実施することとなった経緯でございますが、先ほど市長からご説明いただいたことがほとんどではございますが、明星高等学校がSDGs推進校として様々なことに取り組んでいることを知ったことがきっかけとなります。市として、SDGsの啓発に取り組んでいくにあたり、正直なところ何を行えばいいのか悩んでおり、本年3月に同学校との協定を締結したことに基づき、相談を行ったことが始まりとなります。その中で、明星高等学校の生徒の皆さんが総合の授業の一環で興味のある分野についてグループごとにSDGsをテーマに研究してきたということで、まずは市の職員がSDGsの理解を深めることから始めました。

はじめは、研修等を企画して学んでもらうことなども考えたのですが、なかなかそれでは響きにくいのではないかと、高校生から話をしてもらい、生徒の皆さんを「先生」としてSDGsについて教えてもらうことの方がより職員も意識して取り組んでくれるのではないかと思い、明星高等学校の先生に相談に行ったところ、ぜひやりましょうと言ってもらったことがはじまりとなります。

はじめは第1回の内容しか想定していなかったのですが、生徒さんからの発表を聞き、同じようなことを市役所でもできるのではないかと感じ、先生とも相談する中で、市の事業にもつなげていく第2回・3回の内容を実施することになりました。

また、一方で、市役所には職員が業務改善等を目的に事業を提案する「職員提案制度」というものがございまして、その制度の見直しを図っていたこともあり、この取組を掛け合わせ、職員にSDGsを内容とする取組を考えてもらい、事業提案をしていただきました。この事業に参加した職員は概ね1・2年目の若手職員が多く、高校生からの発表をもとに市の若手職員が実現可能な取組について検討を進めてきたという形となります。最終的に第3回では検討結果を生徒の皆さまにご報告し、市としては次年度予算化し、引き続き明星高等学校と協働していきながら事業を実施していけたらと思っております。

以上でございます。

**○市長** ということございまして、明星高等学校の生徒から学び、本市の若手職員が考えた事業が、次年度は予算化されるということで、素晴らしいことだと思っております。ありがとうございました。

それでは皆様から意見をいただきましたので、ここで締めたいと思います。SDGsの達成には行政や事業者等の取組はもちろん、私たち一人一人の意識、協力がとても大切になりますので、引き続き我々市長部局といたしましても、創造性ある取組ができるように努めてまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしく願いをいたします。

---

最後に次第の3「その他」といたしまして、本日の協議題の他にお気づきの点などございますか。よろしいですか。

それでは以上で本日の協議事項は全て終了とさせていただきます。最後に事務局から連絡がありましたらお願いいたします。

**○事務局** 事務局から1点連絡がございます。次回の開催につきまして、時期といたしましては、3月の開催を予定してございます。時期が近くなりましたら、日程調整の連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。連絡は以上でございます。

**○市長** 本日の開催につきまして、大変ご多忙のところお時間をいただきまして、また熱心にご協議をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第2回府中市総合教育会議を終了させていただきますが、本当に年末押し迫ってまいりまして、今日を入れても5日で今年とお別れになります。今年1年間皆さんに大変お世話になりましたこと、心から厚くお礼申し上げますとともに、令和

5年、素晴らしい年をお迎えになりますように、そして素晴らしい年でありますように、心から祈念いたしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。

以上